

国立大学病院長会議 記者会見

第1部

令和5年3月3日 一般社団法人国立大学病院長会議 会長 横手幸太郎



一般社団法人
国立大学病院長会議
National University Hospital Council of Japan

第1部

三団体による共同調達事業について

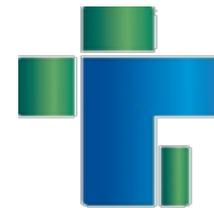
～国立大学病院長会議・地域医療機能推進機構 (JCHO)・東京都立病院機構～

三団体が協力して共同調達に取り組みます

合計**111**病院・**52,095**床



一般社団法人
国立大学病院長会議
44病院・**32,734**床



地方独立行政法人
東京都立病院機構
10病院・**4,134**床



独立行政法人
地域医療機能推進機構 (JCHO)
57病院・**15,227**床

国立大学病院共同調達事業とは

平成28年6月、全国の国立大学附属病院長が「国立大学附属病院における共同調達実施に関する合意書」に署名した「国立大学附属病院が一丸となって、共同調達に取り組む」

国立大学附属病院における共同調達実施に関する合意書

国立大学附属病院は、医療人材の育成、臨床医学と医療技術水準の発展と向上への貢献、地域医療における拠点として質の高い良質な医療の提供等幅広い役割を担っている。

しかし、病院経営の現状においては、高齢化社会に対応する社会保障費抑制政策の結果、診療報酬のマイナス改定等病院を取り巻く経営環境は厳しさを増している。

この状況に対応すべく国立大学附属病院は様々な経営改善策を講じているところであるが、困難な病院経営を余儀なくされているのが実情であり、医療機器の更新の遅れによる医療の質の低下、労働環境の悪化等を防ぐ必要がある。

これまでも各国立大学附属病院においては自主的取り組みとして、安価な調達方法の検討、地域単位での共同調達等が行われているところではあるが、近年、公的病院や医療法人において既に医療機器や医薬品・医療材料等の共同調達の広範囲で組織的な取り組みが進んでおり、一定規模の成果を上げている。

一方、高難度で採算性も厳しい医療を担うことで、経営が困難となっている国立大学附属病院が、社会貢献に見合う財源確保を訴える中でも、他機関と同等程度以上の取り組みが強く望まれているところである。

以上の状況から、国立大学附属病院が一体となって「共同調達」に取り組むことに関し、以下の点について確認し推し進める。

1. 国立大学附属病院が一丸となって、積極的かつ献身的に「共同調達」に取り組む。
2. 当面、全ての国立大学附属病院が共同で交渉にあたることにより、各病院が実施する効率の調達と同程度の成果を目指す。
また、実施においては、国立大学附属病院間の信頼関係に基づき、「共同調達」の成果の獲得を優先する。
3. 各国立大学附属病院は一定期間、「共同調達」による製品を積極的に受け入れ、使用する。
4. 「共同調達」の持続性を担保するため、「共同調達」による各国立大学附属病院の成果の一部を国立大学附属病院長会議において管理する。
5. 「共同調達」の実施に関し必要な事項は事務部長会議総務委員会において検討し、事務部長会議で定める。

以上に合意し、本書に署名する。

平成28年6月16日

国立大学附属病院長会議常置委員会

委員長

山本 修一

国立大学法人北海道大学病院長
国立大学法人旭川医科大学病院長
国立大学法人弘前大学医学部附属病院長
国立大学法人東北大学病院長
国立大学法人秋田大学医学部附属病院長
国立大学法人山形大学医学部附属病院長
国立大学法人筑波大学附属病院長
国立大学法人群馬大学医学部附属病院長
国立大学法人千葉大学医学部附属病院長
国立大学法人東京大学医学部附属病院長
国立大学法人東京大学医科学研究所附属病院長
国立大学法人東京医科歯科大学医学部附属病院長
国立大学法人東京医科歯科大学歯学部附属病院長
国立大学法人新潟大学歯学部総合病院長
国立大学法人富山大学附属病院長
国立大学法人金沢大学附属病院長
国立大学法人福井大学医学部附属病院長
国立大学法人山梨大学医学部附属病院長
国立大学法人信州大学医学部附属病院長
国立大学法人岐阜大学医学部附属病院長
国立大学法人浜松医科大学医学部附属病院長
国立大学法人名古屋大学医学部附属病院長
国立大学法人三重大学医学部附属病院長
国立大学法人滋賀医科大学医学部附属病院長
国立大学法人京都大学医学部附属病院長
国立大学法人大阪大学医学部附属病院長
国立大学法人大阪大学歯学部附属病院長
国立大学法人神戸大学医学部附属病院長
国立大学法人鳥取大学医学部附属病院長
国立大学法人島根大学医学部附属病院長
国立大学法人岡山大学病院長
国立大学法人広島大学病院長
国立大学法人山口大学医学部附属病院長
国立大学法人徳島大学病院長
国立大学法人香川大学医学部附属病院長
国立大学法人愛媛大学医学部附属病院長
国立大学法人高知大学医学部附属病院長
国立大学法人九州大学病院長
国立大学法人佐賀大学医学部附属病院長
国立大学法人長崎大学病院長
国立大学法人熊本大学医学部附属病院長
国立大学法人大分大学医学部附属病院長
国立大学法人宮崎大学医学部附属病院長
国立大学法人鹿児島大学医学部・歯学部附属病院長
国立大学法人琉球大学医学部附属病院長

寶 金 清 博
平 田 哲
福 田 眞 作
八重樫 伸 生
羽 濶 友 則
根 本 建 二
松 村 明
田 村 遵 一
山 本 修 一
齊 藤 延 人
小 澤 敬 也
大 川 淳
嶋 田 昌 彦
鈴 木 榮 一
齊 藤 滋
蒲 田 敏 文
腰 地 孝 昭
藤 井 秀 樹
本 郷 一 博
小 倉 真 治
松 山 幸 弘
石 黒 直 樹
伊 藤 正 明
松 末 吉 隆
稲 垣 暢 也
野 口 眞 三 郎
村 上 伸 也
藤 澤 正 人
清 水 英 治
井 川 幹 夫
横 野 博 史
平 川 勝 洋
田 口 敏 彦
永 廣 信 治
横 見 瀬 裕 保
三 浦 裕 正
横 山 彰 仁
石 橋 達 朗
山 下 秀 一
増 崎 英 明
水 田 博 志
津 村 弘
鮫 島 浩
熊 本 一 朗
藤 田 次 郎

国立大学病院の取り組み

国立大学病院の共同調達による削減金額

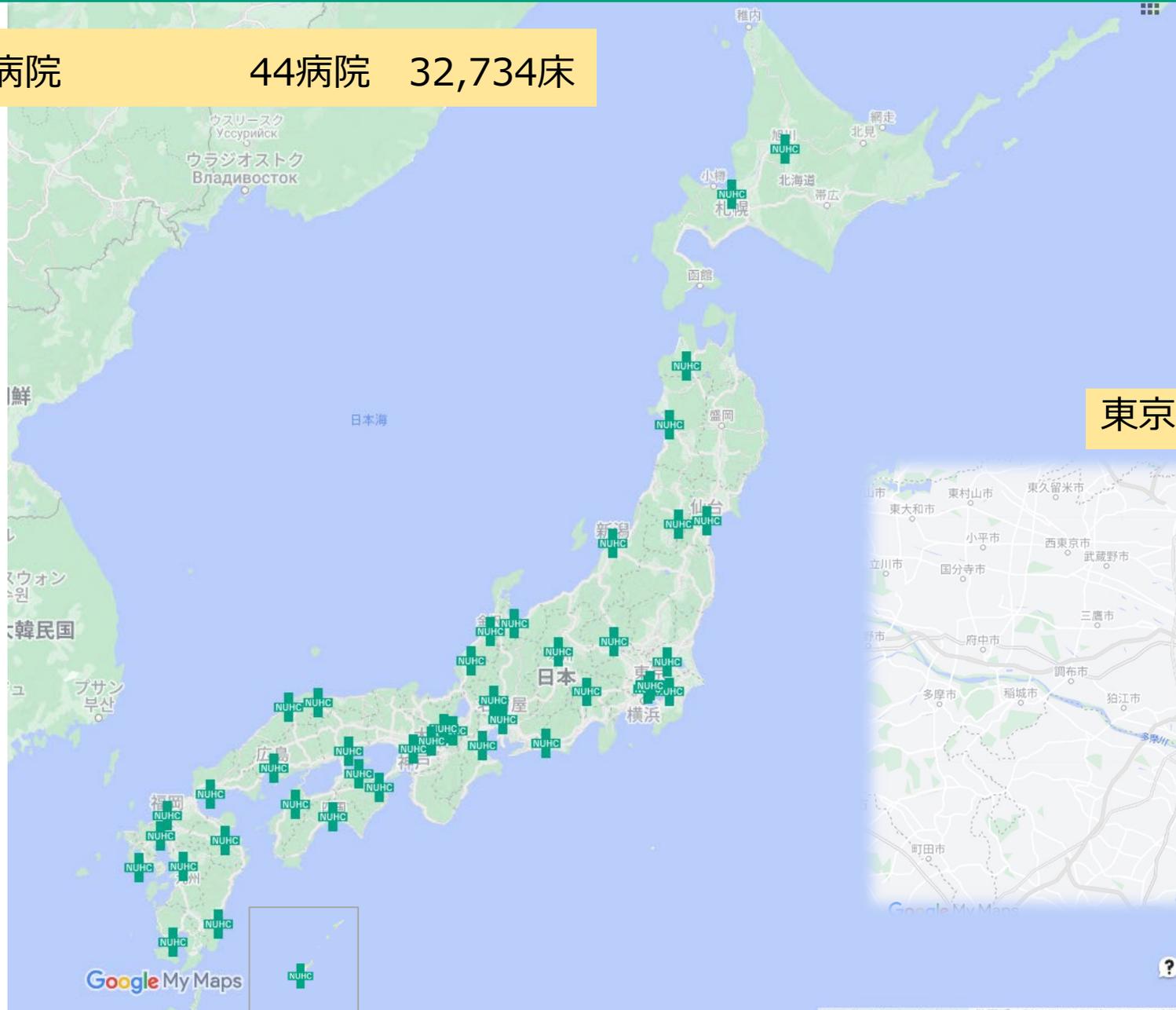
	医療材料	医療機器
	感染防護用品他 例) ニトリル手袋、吸引カテーテル、ペースメーカー他	少額機器 例) 心電計、ベッド、除細動器、AED、フットポンプ他
平成28年度	3億円	-
平成29年度	1.9億円	2,000万円
平成30年度	4億円	1億円
令和元年度	1.9億円	5,700万円
令和2年度	5,700万円	3,600万円
令和3年度	1.6億円	6,500万円
令和4年度	3.2億円	集計中

各年度の結果を合計すると **約19億円の削減!**

国立大学病院

 国立大学病院

44病院 32,734床

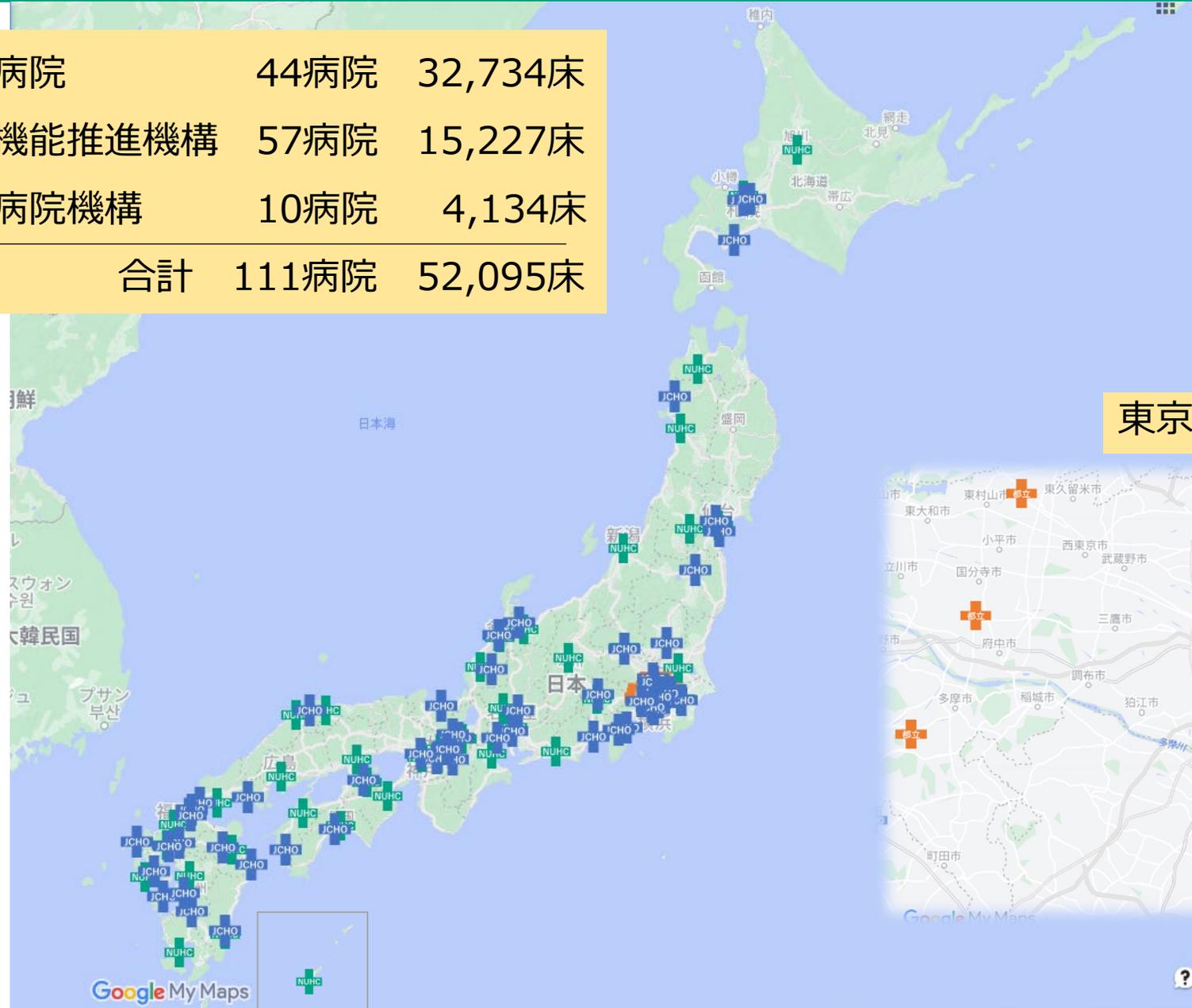


東京都内



国立大学病院・地域医療機能推進機構（JCHO）・東京都立病院機構

 国立大学病院	44病院	32,734床
 地域医療機能推進機構	57病院	15,227床
 東京都立病院機構	10病院	4,134床
合計	111病院	52,095床



東京都内



111病院・52,095床の共同事業



一般社団法人
国立大学病院長会議
44病院・32,734床



地方独立行政法人
東京都立病院機構
10病院・4,134床



独立行政法人
地域医療機能推進機構 (JCHO)
57病院・15,227床



適切な価格による安定調達を目指す

(参考) 国立大学病院における感染防護用品データベース

令和5年1月30日にWEBサイトをオープンしました

商品検索

カテゴリ

キーワード検索

※英数字は半角、それ以外は全角で検索するようにしてください

下記から、商品名・規格/製品番号・用途・材質の詳細検索ができます

商品名

※英数字は半角、それ以外は全角で検索するようにしてください

規格/製品番号

用途

材質

メーカー名

※リストから選択してください

DB登録メーカー名:

検索結果

共通コード	メーカー名	商品名	規格/製品番号	生産国	生産地域	マップ
U501747	川本産業	アイソレーションガウン	027-202012-00 青色 10枚入 / 027-202012-00	中華人民共和国	武漢	詳細 <input checked="" type="checkbox"/>
U054916	川本産業	アイソレーションガウン	027-171314-00 桃色 フリー 10枚入 / 027-171314-00	中華人民共和国	広東省	詳細 <input checked="" type="checkbox"/>
U026547	川本産業	アイソレーションガウン	027-171312-00 青色 フリー 10枚入 / 027-171312-00	中華人民共和国	広東省	詳細 <input checked="" type="checkbox"/>
U461216	大衛	ワンウェイアイソレーションガウン	40538 #3 イエロー レギュラータ입 カフ付 10枚入 / 40538	中華人民共和国	湖北省	詳細 <input checked="" type="checkbox"/>
U347624	大衛	ワンウェイセルフガウン	40500 M(G) 横結タイプ / 40500	中華人民共和国	華中エリリア	詳細 <input checked="" type="checkbox"/>
U342836	大衛	ワンウェイセルフガウン	40460 LL(G) 横結タイプ / 40460	中華人民共和国	華中エリリア	詳細 <input checked="" type="checkbox"/>

地図



詳細

一般社団法人 国立大学病院長会議
NUHC National University Hospital Council of Japan

商品詳細

共通コード: U461216
メーカー名: 大衛
商品名: ワンウェイアイソレーションガウン
規格/製品番号: 40538 #3 イエロー レギュラータ입 カフ付 10枚入 / 40538
JANコード: 4904820405389
生産国: 中華人民共和国
生産地名簿: 湖北省
カテゴリ: ガウン
用途: ガウン
材質: 不織布
製品の販売: 販売中
販売終了日:
国内在庫 (約のか月): 2

国立大学病院における感染防護用品データベース
WEBサイト↓↓

PPE (感染防護用品) データベース構築について

使用者である国立大学病院の購入実績データベースと、販売業者である日本医療機器販売業協会の商品マスタデータベースを利用し、また、メーカーの協力もいただきサプライチェーンの強化を目的とする一気通貫のデータベースを構築いたしました。



国立大学病院長会議 記者会見

第2部

令和5年3月3日 一般社団法人国立大学病院長会議 会長 横手幸太郎



一般社団法人
国立大学病院長会議
National University Hospital Council of Japan

第2部

国立大学病院の現状等について

1. 新型コロナウイルス感染症関連

医療機関は引き続き “ゼロコロナ” を継続

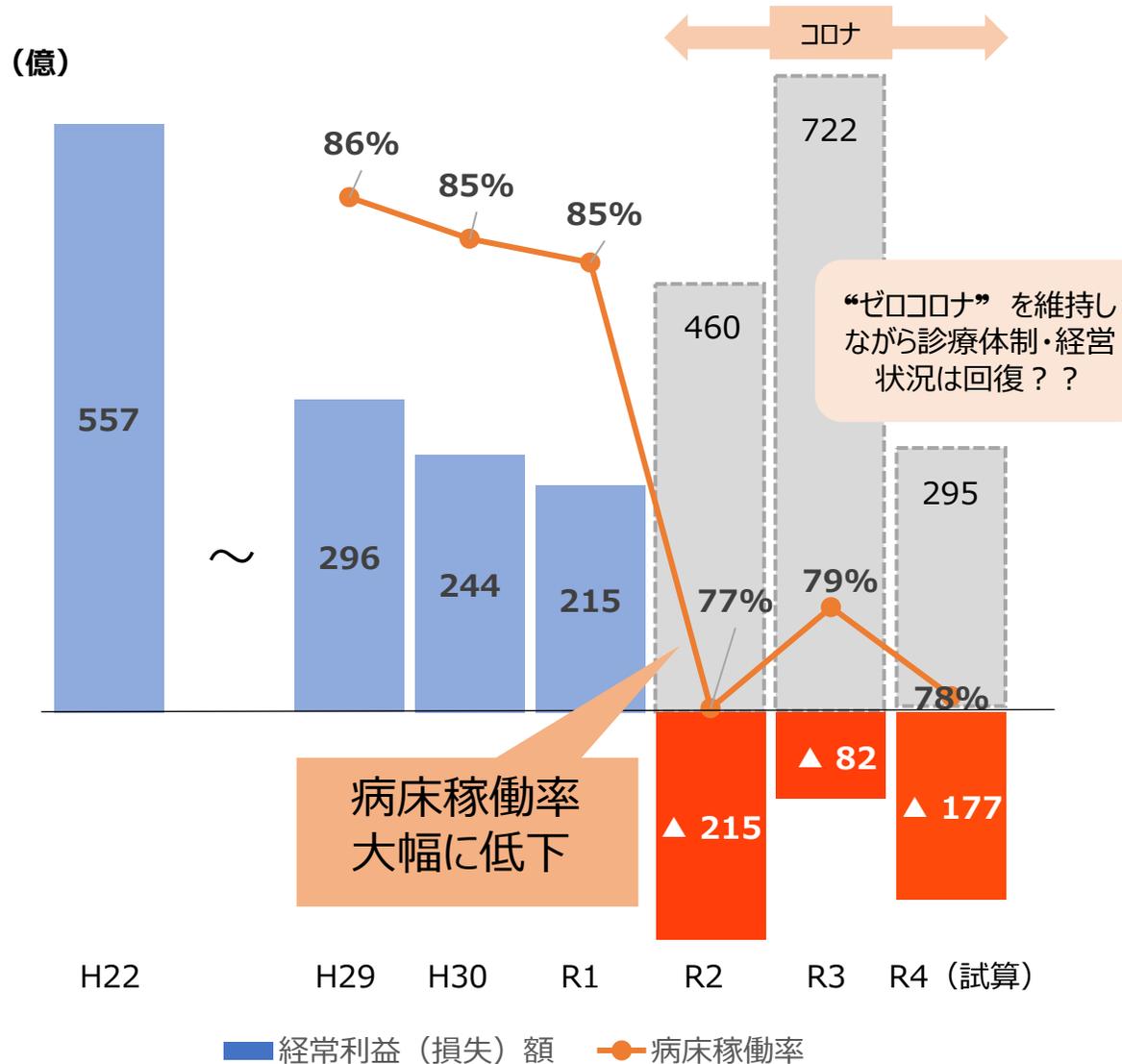
令和5年5月8日より感染症法上の分類が2類相当から5類へ移行

- 医療機関は **“ゼロコロナ”** を継続しなくてはならない
 - ・ 余病のある方、ご高齢の方は重症化リスク、病悩期間が長くなってしまう
 - ・ 院内へウイルスを持ち込ませない水際対策、院内伝播を防ぐ感染対策は引き続き必要
- とにかく人手、時間、物資、空間を要する
 - ・ 通常診療よりも**3倍程度の人手**が必要
 - ・ ゾーニング、隔離のための空間も必要で通常診療のスペースを圧迫
- 医療従事者のコロナによる休務者増によりコロナ・通常診療体制にも大きな影響

2類から5類へ移行しても医療機関の診療提供体制は変えられない

コロナが病院経営へ与えた影響

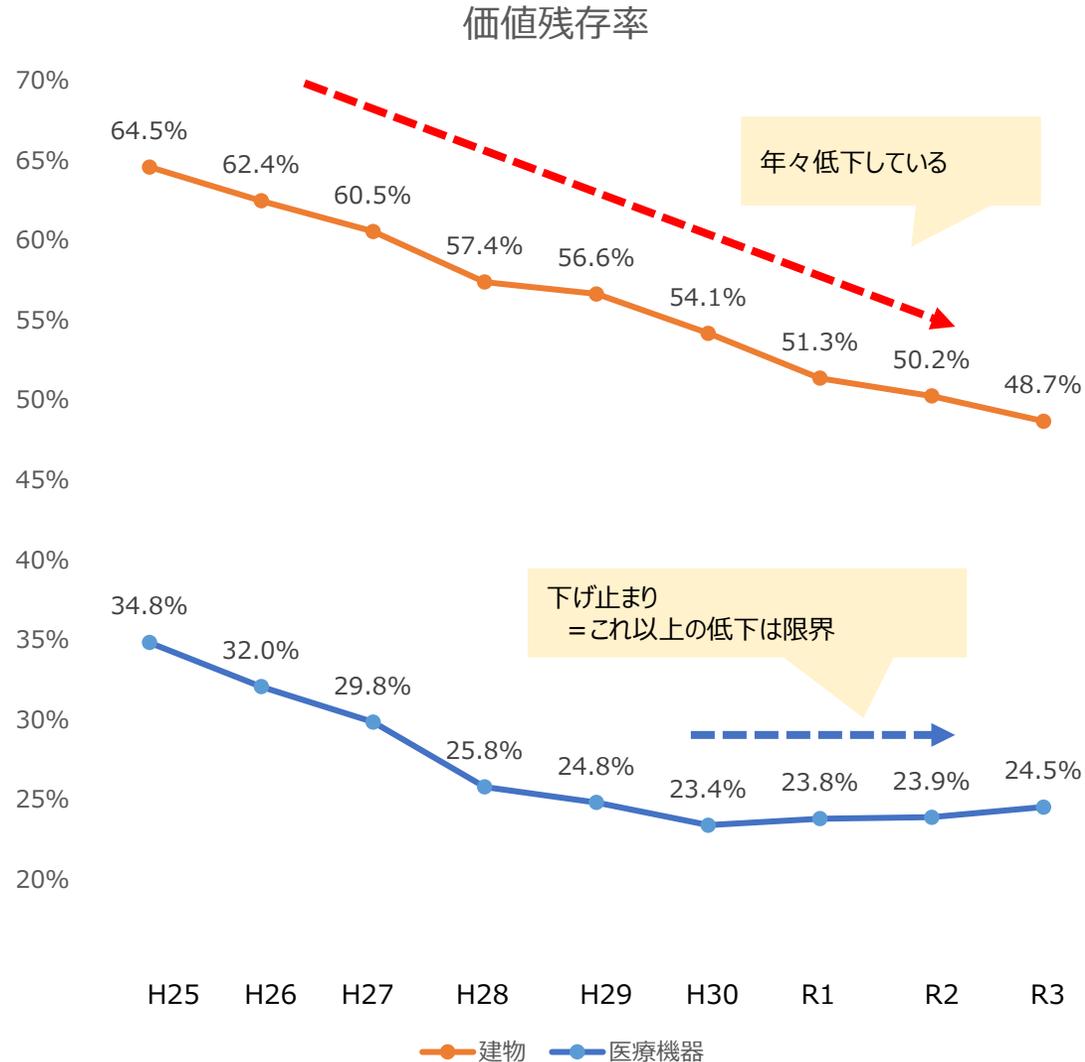
経常利益（損失）額及び病床稼働率（国立42大学）



- コロナ禍以前より既に経常利益額は減少傾向
- コロナ流行期、感染患者受入のための病床確保や診療制限等により**病床稼働率が大きく低下**
- 病床確保料等の支援がなければ大幅な損失となっていた
- 医療機関は今後も**“ゼロコロナ”**を維持する必要があるなか、5類移行後すぐにコロナ禍前の診療体制、経営状況に回復するのは困難

大学病院が**安心して医療の提供を行えるよう**
引き続きの財政的支援をお願いしたい

コロナ前から続く医療機器と建物の老朽化



- 減益傾向の経営状況、R2年度以降は **コロナや物価高騰**といった先行き不透明な影響から、投資は足踏み状態

- 多くの医療機器が**耐用年数を超過**しており、価値の残存率は取得時のわずか**24%**程度でリースも活用しながら踏みとどまっている
- 更に建物の価値残存率の低下も確実に進行している

- 安全安心な医療を支える**インフラが危機に瀕している大学病院に求められる機能を維持**するために、引き続きのご支援・ご理解をいただき

価値残存率：(取得原価-減価償却累計額)÷取得原価

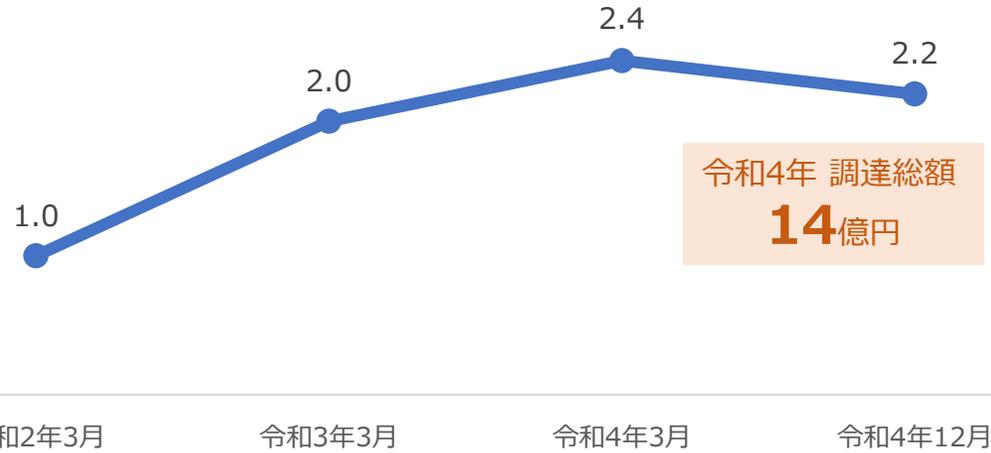
出典：財務諸表（病院セグメント情報）より

2. 物価・光熱費高騰の影響

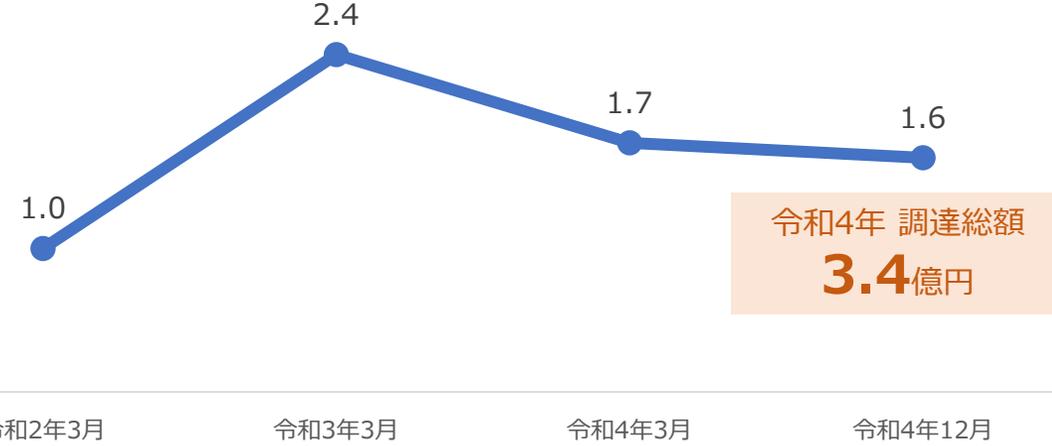
必需品のPPE（感染防護用品）単価推移

令和2年3月の単価を「1」とした場合の単価推移（国立大学病院）

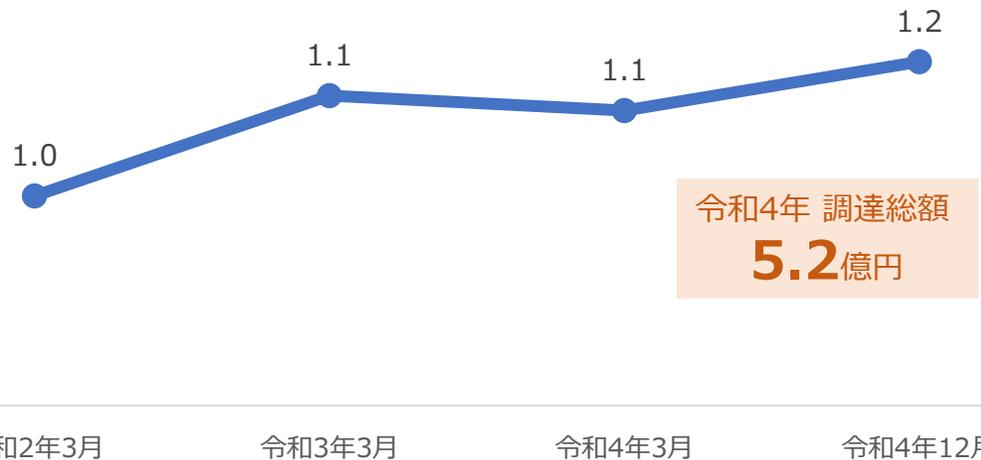
ニトリル手袋



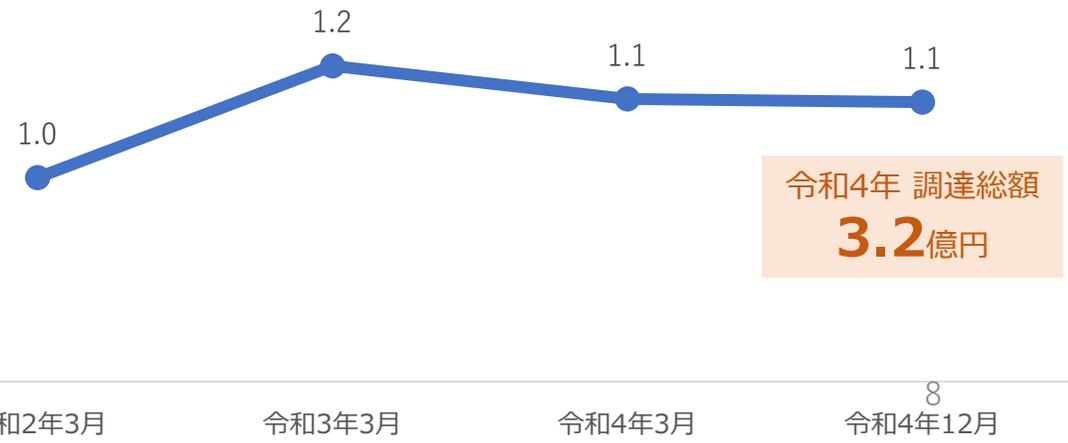
プラスチック手袋



ガウン



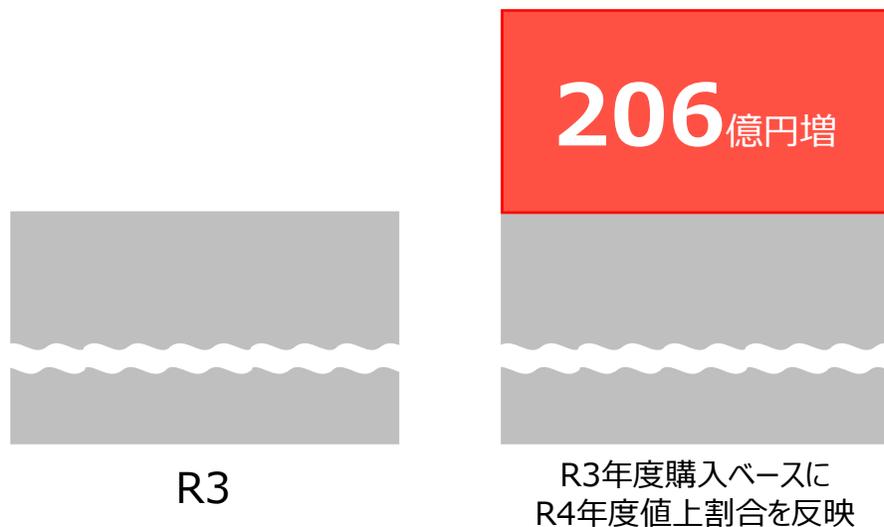
マスク



物価高騰の影響は医療機関にも大打撃

国立大学病院 医療材料メーカー別 値上割合調査

R4.10 国立大学病院長会議にて調査



平均 **15.2%**UP

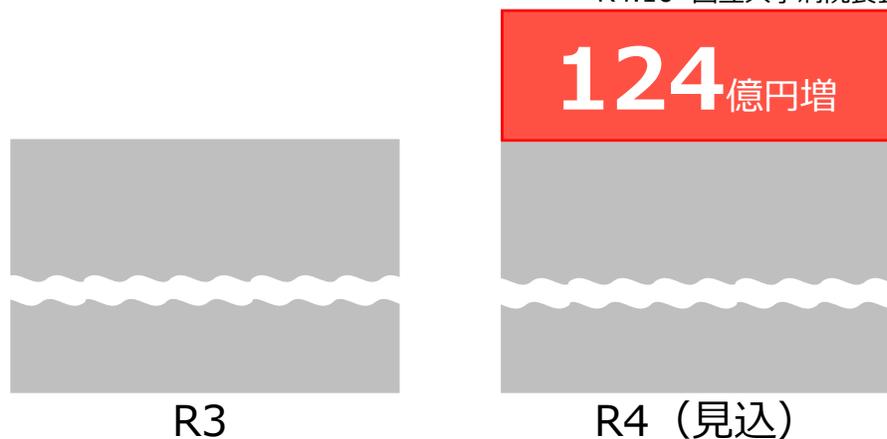
令和3年度全購入金額で算出すると

約 **206** 億円の負担増

- 各国立大学病院に、医療材料メーカーの値上割合調査を実施
- 国立大学病院と取引のある930メーカー中、533メーカーが値上
- 購入金額の高い上位100メーカーで全購入金額91%を占めている

光熱費の負担増調査

R4.10 国立大学病院長会議にて調査

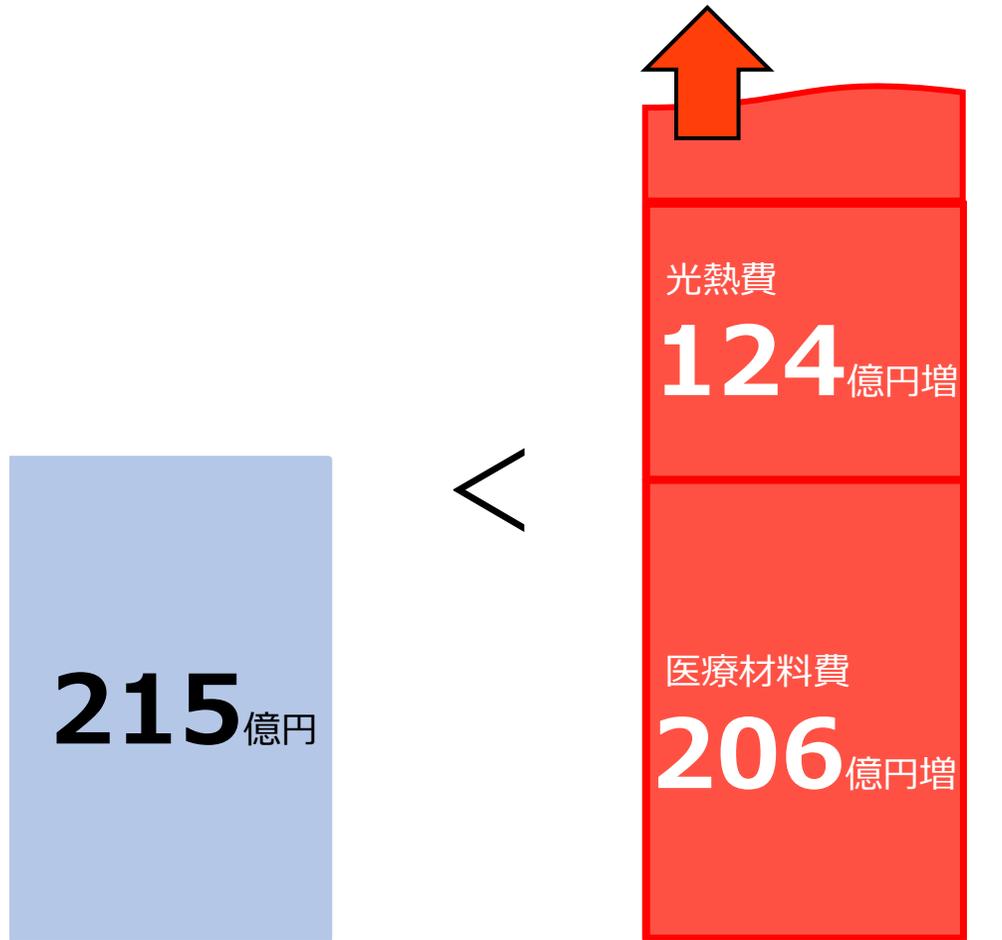


約 **124** 億円の負担増

都道府県からの支援額は**8.2**億円
(4病院は支援なし)

コロナ前の利益をはるかに上回るコスト増

令和4年度の光熱費・医療材料費だけで



R1年度経常利益額

R4年度負担増加額

合計 **330** 億円の負担増

- コロナ禍以前（令和1年度）の経常利益額を大幅に上回る負担増
- 医薬品費や委託費等、その他費用の負担も増加
- 今後も物価高騰は長期化することや、負担の増加幅が大きくなることも懸念

医療機関はコスト増加を**価格転嫁できない**

コスト増加に対して、**診療報酬等で適正な支援**をお願いしたい

3. 医師の働き方改革

国立大学病院の医師の働き方改革

令和6年4月に向けた、医師の働き方改革への対応として様々な取り組みを実施

<取り組み（抜粋）>

自院・派遣先の通算労働時間を把握

- ・労働と自己研鑽のガイドライン策定・周知
- ・自院での労働時間を把握
- ・派遣先の労働時間把握、派遣先宿日直許可の有無を確認

連続勤務時間制限、勤務間インターバル等の追加的健康確保
措置への対応検討

タスクシフト、シェアや診療体制の見直し等、労働時間短縮する
ための取り組みを検討、実施

医師労働時間短縮計画を策定し第三者評価を受審、都道府県より特例水準の指定を受ける

<想定される費用（抜粋）>

より精緻かつ客観的な労働時間の把握により判明した超過勤務手当の増加分

自院・派遣先の診療体制や夜間・救急診療体制を維持に必要な医師の増員、手当にかかる費用

看護師、薬剤師、その他コメディカルスタッフの採用や手当
医師事務作業補助者の採用 等 にかかる費用

働き方改革への対応に伴うシステムに関する費用（勤怠管理システム、ICT機器等の導入・保守費用）

働き方改革への対応、体制の維持には**多額の費用負担が発生**する

令和6年度以降も働き方改革による**これまでの取り組みを継続し、更に改革を推進**していく必要がある

引き続き地域医療へ貢献

令和6年（2024年）4月以降に予定している「時間外・休日労働の上限規制の水準」

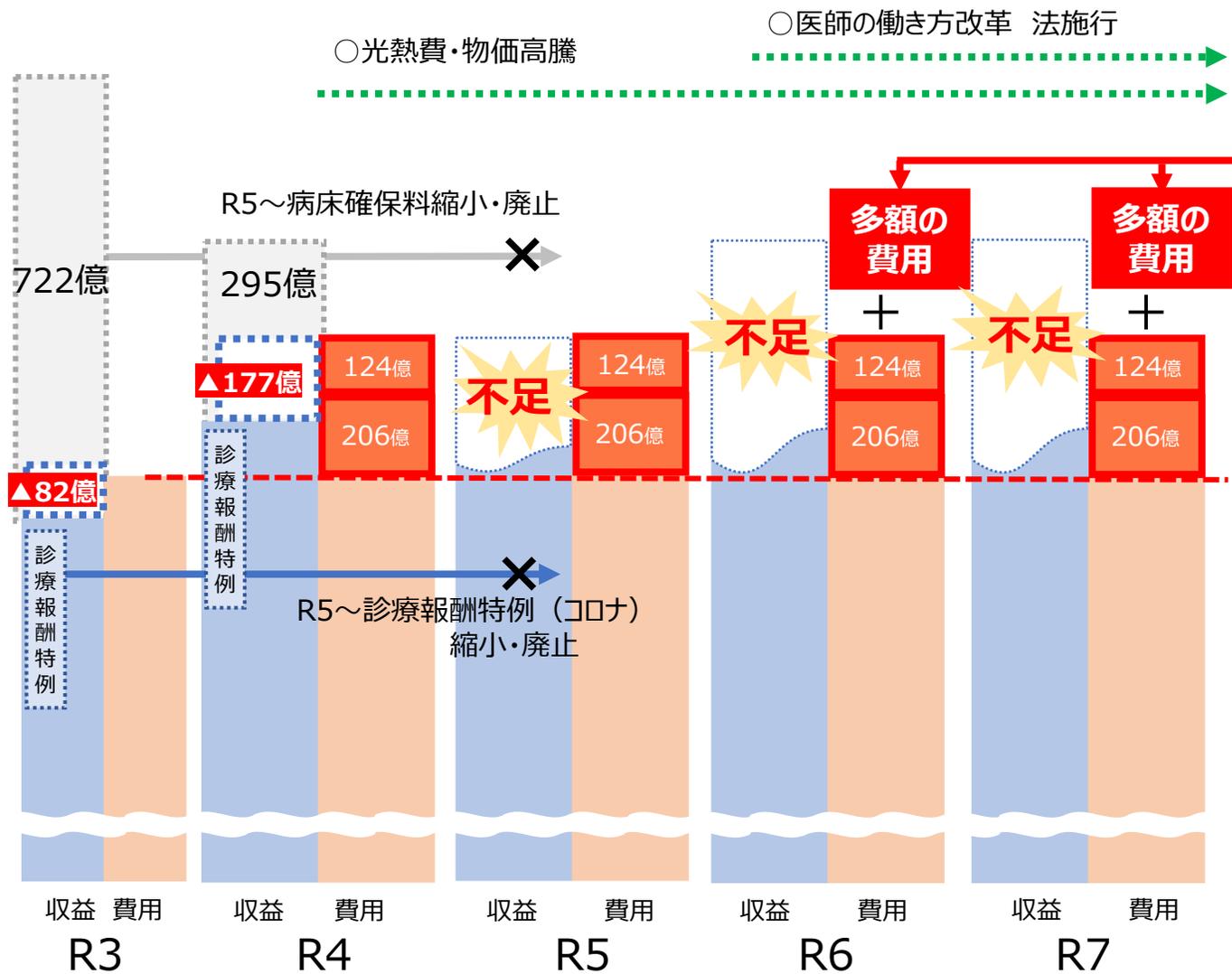
R5.1 国立大学病院長会議 調査

項目	大学数 <small>（複数回答可）</small>	備考
連携B水準	42大学	全大学が連携B水準の申請を行うと回答 自院のみでは960時間以内だが派遣先での労働時間を通算すると960時間を超える医師がいると想定
B水準	22大学	22大学が自院のみで時間外労働が960時間を超える医師がいると想定
C-1水準	12大学	12大学（全体の4分の1）で時間外労働が960時間を超える臨床研修医・専攻医研修プログラムを想定
C-2水準	6大学	6大学（全体の7分の1）で時間外労働が960時間を超える集中的な技能訓練が必要な医師がいると想定

国立大学全病院が連携B水準の申請を行うと回答

医師の働き方改革の法施行後も、国立大学病院は**地域医療体制の維持に尽力する姿勢**

財政的余力は限界



光熱費、物価高騰分の負担増に加えて
医師の働き方改革にも多額の費用が必要

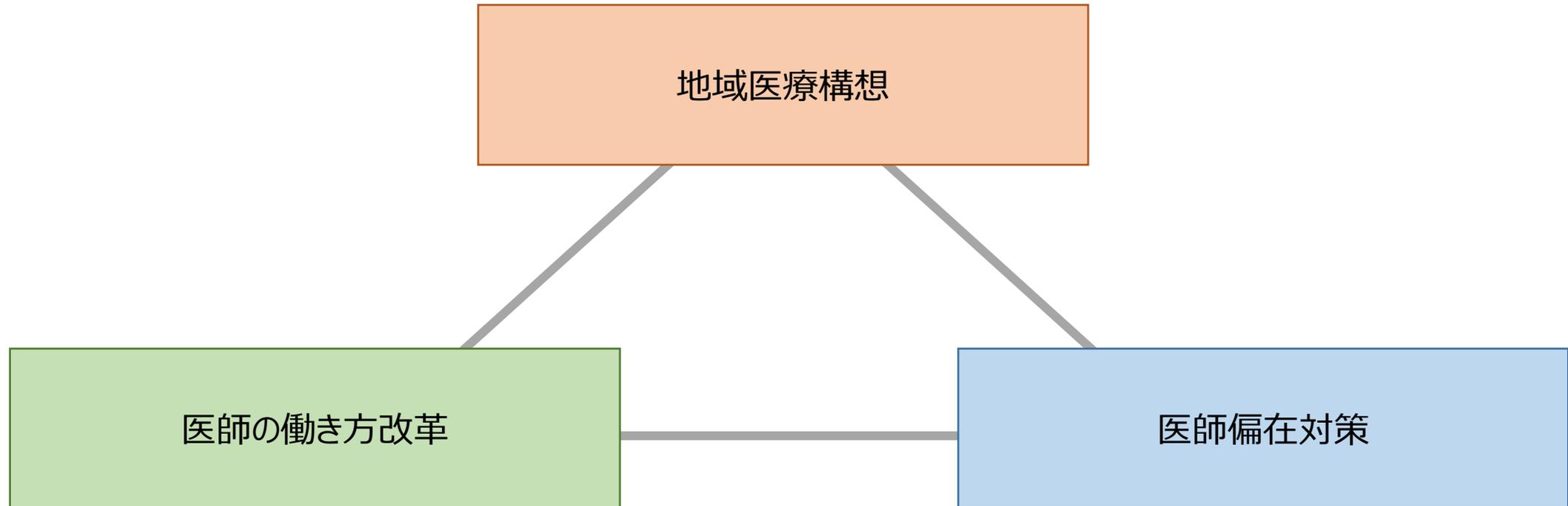
コロナからの回復、物価高騰といった苦しい経営状況の中、
働き方改革へ対応するための**財政的余力は限界**

- 働き方改革の実現、その**体制を維持し続けられるか**
- 今後の事業継続性も懸念

医師の働き方の実現、令和6年以降も体制を維持し続けるために、**継続的な財政支援**を強く要望

更なる改革推進のため、三位一体での支援、協力を！

連携B水準、B水準については地域医療暫定特例水準とされ、2035年度末を目標に終了することが予定されており、自院・派遣先の時間外・休日労働を通算して960時間未満に縮減する必要がある



働き方改革・地域医療構想・医師の偏在対策の三位一体での改革推進と実現について、ご支援・ご協力をお願いしたい

働き方改革の実現に向け、患者さん・家族へのご理解・ご協力のお願い

【千葉大学医学部附属病院】▶地域の医療機関への紹介の推進

別紙1 当院で病状が落ち着いたら、地域の医療機関へ



②で地域の医療機関をご紹介したにもかかわらず、当院の受診を継続する場合は、別途自己負担として
選定療養費5,500円(税込)をいただきます。

但し、令和4年10月1日以降は、**6,050円(税込)**に変更となります。

*「選定療養費」とは、日常診療はかかりつけ医、高度・専門医療は大病院という医療機関の機能の役割分担を目的とした国の制度です。

一人の患者さんを地域全体で



千葉大学病院 病院長 7/10 71/81

より良い医療を提供するために

当院も「診療体制の適正化」に取り組みます。

働き方改革が各方面で進められている中、昨年、厚生労働省に「医師の働き方改革に関する検討会」が設置され、当院でも検討を進めています。患者さんに安心・安全で質の高い医療を提供し続けるためには、まず、医師自身が健康でなければなりません。休憩時間を十分に確保できていない現状を見直す必要があると考えています。患者さんやご家族の皆様にもご協力いただきながら、下記の徹底を図るところから始めてまいります。ご理解、ご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

1. 患者さんへのご説明や、相談対応などは
平日8:30~17:15に行います

医師など病院職員による病状や手術・治療のご説明やご相談は、原則、平日8:30~17:15(診察時間)に行います。



2. 土日・祝日・平日夜間は
主治医ではなく、当番医が担当します

土日・祝日、平日の夜間は、当直・当番医師が主治医に代わり、対応いたします。当番医は、主治医と連絡を取りながら適切な診療を行っています。

当番医 主治医



3. 救急診療は、症状が重く、
緊急性が高い場合のみに行います

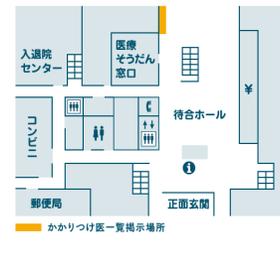
救急診療は、症状が重い患者さんのために行います。できる限り、通常の診察時間内に受診してください。また、軽い風邪など日常的な疾患については、近隣の医療機関への受診をお願いいたします。



【東北大学病院】▶かかりつけ医への紹介(逆紹介)の推進

かかりつけ医検索システム
 東北大学病院ホームページから
 連携医療機関・かかりつけ医を検索できます
<https://www.renkel.hosp.tohoku.ac.jp>
 携帯・スマホの方はQRコードからもアクセス!

院内にかかりつけ医一覧を掲示しています。ぜひご覧ください。



かかりつけ医についてのご相談は下記にてお受けしております
 医療そうだん窓口(地域医療連携センター)外来診療棟 A1 階
 TEL. 022-717-7618 / 8:30~17:15 (受付は16時まで)
 月曜~金曜(土日祝・年末年始を除く)

かかりつけ医への紹介(逆紹介)について

近年、国の医療政策が、各病院・医療施設の役割を明確化し、効率的に医療を行う方向に進んできています。そのため、特定機能病院は外来診療よりも入院診療に軸を置くように厚生労働省から強く指導されており、本院も例外ではありません。これは高齢化や医療の高度化・専門化により医療ニーズが多様化し、一つの医療機関でそれら全てに対応することが困難となってきたことが大きな理由です。本院は特定機能病院として、地域の医療機関と互いに協力し、患者さん一人ひとりに必要とする質の高い医療を持続的に提供するため、かかりつけ医への紹介(逆紹介)を推進しています。



症状が安定したら かかりつけ医へ

受診前に必ずお読みください



本リーフレットをよくお読みになり、内容をご理解いただいた上で受診いただくようお願いいたします。

東北大学病院



皆さまへのお願い

本院の受診にあたり、以下について、ご了承くださいませ
 お願いいたします。

- 症状が安定した患者さんは、本院の主治医より紹介元のかかりつけ医やご希望の地域の適切な医療機関・施設へ紹介(逆紹介)いたします。
- 本院で複数の診療科を受診(例えば、消化器内科、整形外科、耳鼻科などを同時に受診)されている患者さんも、症状が落ち着いた診療科においては個別に逆紹介いたします。
- かかりつけ医のない方や新たに適切な医療機関をご希望の方は、主治医にお申し出ください。ご相談窓口をご案内いたします。

尚、逆紹介後も、患者さんの情報は引き続き本院にて保有しております。病状に変化があった場合には、かかりつけ医から本院への紹介状をお持ちいただいた上で、本院を受診することができますのでご安心ください。

働き方改革の実現に向け、患者さん・家族へのご理解・ご協力のお願い

【鹿児島大学病院】 ▶病状説明は平日の診療時間内に
▶主治医と当番医の協力体制

よりよい医療を提供するために 「診療体制の適正化」に取り組みます

働き方改革が各方面で進められている中、当院でも検討を進めています。

患者様に安心・安全で質の高い医療を提供するためには、まず、医師自身が健康でなければなりません。患者様やご家族の皆様にもご協力をいただきながら、下記の徹底を図ることから始めてまいります。

どうぞ、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

1 医師など病院職員による患者様へのご説明や、
相談対応などは 平日 8:30~17:00
(診療時間内)に行います。

2 土日・祝日、平日夜間は主治医ではなく、
当番医が担当します。
必要な時は当番医は主治医と連絡を取りながら
適切な診療を行ってまいります。



【名古屋大学医学部附属病院】 ▶予約変更の原則お断り

予約変更について

● 原則、予約された日時でのご来院をお願い致します。

【患者さんへのお願い】

当院では他の患者さんへの影響を考慮し、一度お取りしたご予約の変更は原則お断りしています。

(やむを得ない事情による当日のご予約キャンセルを除く)

来院時に次回の予約をした際には、必ず日時のご確認をお願い致します。

近年、患者さんからご予約の変更に関するお問い合わせが増加しており、予約センター以外の電話回線も含め、予約変更の対応のために電話がつながりにくいという状況が発生しております。

この電話対応のため、通常の診療受付等にも影響がおよび、他の患者さんが予約時間どおりに診察を受けることが難しい状況にもつながっております。

大変申し訳ございませんが、やむを得ない事情以外のご予約の変更は、原則ご遠慮いただくよう改めて協力をお願いいたします。

予約変更は、やむを得ない場合に限り、下記へご連絡ください。

予約センター 052-744-2937 (受付時間：平日 午後2時~午後3時30分)